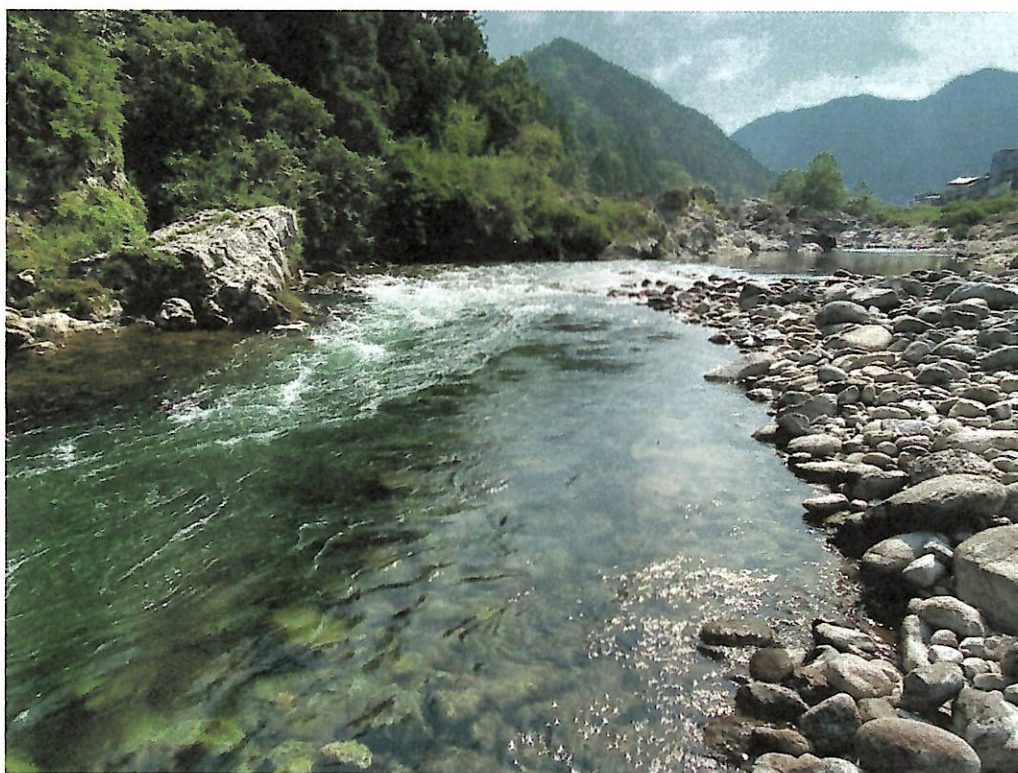


第62回 東海北陸中学校長会研究協議会

三重大会 開催要項

令和4年7月7日(木)～8日(金)



東海北陸中学校長会
三重県小中学校長会

第62回東海北陸中学校長会研究協議会三重大会

向春の候、会員の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、第62回東海北陸中学校長会研究協議会三重大会が、東海北陸7県から会員の皆様をお迎えし、この「美し国・三重」で開催できますことを大変光栄に感じます。現在、三重県中学校長会では他県からご参加いただく皆様をおもてなしの心でお迎えし、三重のよさを味わっていただけるよう、また、この大会で端緒をつかみ、各校の教育活動に活かされますよう一丸となって準備を進めているところです。

予測困難で変化の激しい社会にあって、子どもたちが自らの力を生かし、活躍することができるよう資質・能力を身につけさせる必要があります。コロナ禍での学習指導要領への対応、職員の働き方改革など課題が山積する中、これまでの東海北陸中学校長会研究協議会での成果を継承しつつ、本大会において、会員一人ひとりが中学校教育への熱い思いと各中学校における実践と成果を結集し、分科会研究題にせまる活発な議論が進められ中学校教育のさらなる充実と発展につながる機会としていきたいと考えています。

三重の地で多くの会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。

令和4年2月

第62回東海北陸中学校長会研究協議会
三重大会実行委員長 松田 誠

I 大会要項

- 1 研究主題 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく人を育てる中学校教育」
- 2 主 催 東海北陸中学校長会 三重県小中学校長会
- 3 後 援 三重県・三重県教育委員会
津市・津市教育委員会
三重県市町教育長会
全日本中学校長会
- 4 期 日 令和4年7月7日(木)・8日(金)
- 5 日 程

		10:30	11:00	12:00	13:10	13:30	16:30	17:30	18:00	20:00
7日 (木)			受付	東陸中 理事会	分科会 打合せ	受付	分科会		受付	レセプション
		8:45 9:15	10:15	11:40	12:00					
8日 (金)	受付	全体会 I		記念講演				全体会 II		

(1) 7月7日(木) 日程・内容

理 事 会	分科会打合せ	分 科 会	レセプション
11:00～12:00	12:00～13:10	13:30～16:30	18:00～20:00
ホテル グリーンパーク津	三重県総合文化センター アスト津 三重県教育文化会館	三重県総合文化センター アスト津 三重県教育文化会館	ホテル グリーンパーク津
○会長挨拶 ○令和3年度 会務・会計報告 ○令和4年度 事業計画・予算 ○大会宣言・決議文 ○三重大会概要 ○次年度開催県挨拶 及び基本構想説明	※昼食 ○挨拶 ○分科会の流れの確認 ○司会者・発表者打合せ	○開会の言葉 ○研究協議 ・口頭発表 ・グループ協議 ・まとめ ○閉会の言葉	○会長挨拶 ○全日中会長挨拶 ○来賓祝辞・紹介 ○乾杯 ○歓談 ○次回開催県挨拶

(2) 分科会研究題・分担及び分科会場

分科会	研 究 題	口頭 発表	司会	会場
1	「カリキュラム・マネジメント」の推進	愛知 岐阜	岐阜 三重	三重県総合文化センター 第1ギャラリー
2	「主体的・対話的で深い学び」の実現	福井 富山	福井 三重	三重県総合文化センター 第2ギャラリー
3	よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実	三重 石川	石川 三重	三重県総合文化センター 小ホール
4	健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実	愛知 福井	愛知 三重	三重県総合文化センター 大研修室
5	社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実	静岡 三重	静岡 三重	三重県総合文化センター 多目的ホール
6	自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実	岐阜 愛知	岐阜 三重	三重県教育文化会館 大会議室
7	多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成	富山 静岡	富山 三重	三重県教育文化会館 多目的ホール
8	学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現	石川 岐阜	石川 三重	アスト津 アストホール

(3) 分科会参加人数

	石川	福井	岐阜	愛知	富山	静岡	三重	合計
会員数	84	72	176	412	76	254	146	1220
参加者数	42	47	114	268	54	166	149	840
第1分科会	5	6	16	39	7	26	21	120
第2分科会	5	6	16	39	8	26	21	121
第3分科会	6	6	14	39	6	25	22	118
第4分科会	5	6	12	26	5	12	14	80
第5分科会	5	6	15	39	7	26	22	120
第6分科会	5	6	13	24	6	13	14	81
第7分科会	5	5	13	23	8	13	15	82
第8分科会	6	6	15	39	7	25	20	118
合計	42	47	114	268	54	166	149	840

※石川県 50%、三重県 100%、その他 65%

(4) 7月8日(金) 日程・内容

受付	全体会Ⅰ	記念講演	全体会Ⅱ
8:45~9:15	9:15~10:15	10:15~11:40	11:40~12:00
三重県総合文化センター 大ホール			
	○開会式 ・国歌斉唱 ・開会の挨拶 ・来賓祝辞 ・来賓紹介	○講演会	○大会宣言・決議文 ○閉会式 ・閉会の言葉 ・次年度開催県挨拶

6 記念講演

演題 「神島とへき地医療のこれから」
講師 鳥羽市立神島診療所医師 小泉 圭吾 氏

三重県松阪市に生まれ、自治医科大学を卒業後、平成15年4月三重県に入庁し、三重県立総合医療センター、南伊勢町立南伊勢病院などの勤務を経て、平成21年から、三島由紀夫の小説『潮騒』の舞台として知られる離島にある神島診療所に勤務し、島民約330人に対する診察を続けている。また認知症対策として高齢者を対象とした体操教室の開催や在宅医療の環境作りなど、地域住民に寄り添い住民の健康福祉増進に貢献している。

7 参加費

参加費 7,500円

8 大会事務局

第62回東海北陸中学校長会研究協議会三重大会事務局 三重県小中学校長会事務局
〒514-0003 三重県津市桜橋2丁目142番地
TEL 059-227-7011 FAX 059-277-7317

Ⅱ 研究協議の概要

1 研究主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく人を育てる中学校教育」

2 研究構想

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は新たな局面を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少やグローバル化の一層の進展、人工知能（AI）の飛躍的な進化をはじめとする絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく変化し続けており、近い将来の予測すら困難な時代となっている。

また、急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手としてその多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが必要である。そうした中、我が国はI o T (Internet of Things) や人工知能で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、必要な情報が必要なときに提供されるような新たな社会 (Society5.0) の仕組みづくりに挑み始めている。

さらに、令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、社会秩序や人々の生活等を一変させるような事態と子どもたちが常に隣り合わせにあることを実証することとなった。この先にある時代を担う子どもたちには、様々な変化に主体的に向き合うとともに我が国の伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、よりよい社会を形成していく力を身に付けることが求められている。

中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、社会に開かれた教育課程の理念のもと、子どもたちに新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むための学習指導要領等の改善・充実の方向性が示された。そこでは、子どもたちの多様で質の高い学びを引き出すため、学校教育を通じて子どもたちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる「学びの地図」として学習指導要領等の枠組みを見直すことが求められている。また、各教科等の教育内容を、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で組織的に配列し、教育内容の質の向上に向けて教育課程の改善を図る一連のPDCAサイクルを確立し、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる「カリキュラム・マネジメント」が重要であること等が指摘された。また、「何ができるようになるか」を明確にしながら、それぞれの子どもの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図し、学習の在り方そのものの問い直しを目指した「主体的・対話的で深い学び」が重要であることなどが含まれている。

一方、中学校教育の現状を見ると、いじめの問題をはじめ、暴力行為、パソコンや携帯電話を利用した問題行動、規範意識や社会性の未成熟、学習意欲の低下など、様々な課題が指摘されている。これらの課題の解決を図るとともに、自殺の防止や不登校生徒への支援等に取り組み、子どもたちの命や安全を守るためにも、教職員の力だけでなく、家庭や地域の教育力を生かしたり関係機関との連携を図ったりしていくことが必要である。そのために、学校は従来から閉鎖的と言われる体質から抜け出し、「地域とともにある学校」に転換していくことが求められている。また、平成31年1月には教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにすることを目的として、学校における働き方改革を進めていく必要があるとの答申が示された。

令和3年度より全面実施されている中学校学習指導要領では、上記の中央教育審議会答申を踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指して、確かな学力の育成や道徳教育の充実、体験活動の重視、豊かな心や健やかな体の育成を改定の基本的な考え方としており、育成を目指す資質・能力の明確化や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進、カリキュラム・マネジメントの推進の必要性なども示されている。これらは、予測困難で変化の激しい時代において、新たな価値を生み出し、よりよい社会を形成していく人材育成が、これからの中学校教育の役割であることを示唆しているものと考えられる。

東海北陸中学校長会では、全日中教育ビジョンの趣旨を踏まえ、学校における働き方改革を含めた新たな教育課題に対しても果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を進めていかなければならない。そこで、令和4年度第62回東海北陸中学校長会研究協議会三重大会において、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく人を育てる中学校教育」を研究協議会主題として研究を深め、我が国の中学校教育の向上に資するとともに、生徒・保護者・地域の期待に応えたい。

3 分科会研究題と研究の視点

第1分科会 「カリキュラム・マネジメント」の推進

予測困難で急激に変化する社会に生きる生徒たちは、未知の状況に対応し、新しい時代を切り拓いていく力を身に付けなければならない。そのため学校には、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を形成するという目標を社会と共有しながら、生徒たちに育成すべき資質・能力を具体的かつ明確に示し、社会と連携・協働して育てていくための「カリキュラム・マネジメント」を推進することが求められる。生徒たちが豊かな創造性を備え持続可能な社会の形成者となるためには「生きる力」が必要であり、その資質・能力の柱は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」である。そこで各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる力の育成のために、教科等横断的な学習の充実や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等が求められており、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントに努めることが必要である。

[研究の視点]

- ① 全面実施となった学習指導要領に基づく教育課程の実施状況を把握し、その改善を図るための学校評価の在り方
- ② 豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成するために、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成・実施・評価
- ③ 外部の人的・物的資源を有効活用し、家庭や地域社会との連携・協働を深める教育課程の編成・実施・評価

第2分科会 「主体的・対話的で深い学び」の実現

生徒たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、

「どのように学ぶか」という学びの質が重要になる。学びの質は、生徒たちが様々な社会の変化に向き合い、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話や書物等を通して考えを広めたり深めたり、各教科等で身に付けた資質・能力を様々な問題の発見や解決に生かすよう学びを深めたりすることによって高まる。教員には、習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し、個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら、子どもたちの変化等を踏まえつつ自ら指導方法を不断に見直し改善していくことが求められる。加えて、学校において日常的にICTを活用できるような環境づくりとともに、学びの質を高めるICTの活用方法についての実践的研究と成果の普及も求められる。こうして「主体的・対話的で深い学び」が実現するように、日々の授業改善に向けた取組を活性化していくことが必要である。

[研究の視点]

- ① 教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせて「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の工夫
- ② 全ての学習の基盤となる言語能力や情報活用能力、問題を発見し解決する能力の向上
- ③ 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による学習評価の工夫

第3分科会 よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

生徒の生活様式が変化し、自然や人間との関わりの希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり、生命の尊さについて考える機会が減少しつつある。このことが生命軽視の軽はずみな言動につながり、深刻ないじめなどの社会的な問題となることもある。その解決のためには、各教科等における道徳教育との関連を図りながら、「特別の教科 道徳」において、計画的、発展的な指導や体験活動等を生かす指導など、道徳的諸価値について自覚を深める授業の充実を図り、生徒の道徳性を養うことが必要である。また、教育活動全体の取組を通じて、生徒一人一人の自己有用感に裏付けられた自尊感情を高めることにもつながる指導の工夫も大切である。

さらに、現実の問題に対応できる資質・能力を育むためには、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実するとともに、生徒が自分自身の問題と捉え真正面から向き合い、一面的な見方から多面的・多角的に考え議論していく「考え、議論する」道徳科の授業を実施することが大切である。また、家庭や地域社会と育てたい生徒像を共有し、相互の連携強化を図ることも重要である。

[研究の視点]

- ① 道徳的諸価値についての理解と、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成
- ② 生徒が自ら考え理解し、主体的に道徳性を育むための指導の工夫
- ③ 道徳教育推進教師を中心とした協力的な指導体制の充実

第4分科会 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実

これまでの学校の取組により運動やスポーツの好きな生徒の割合が高まり、生徒の体力は低下傾向に歯止めが掛かり、ゆるやかに上昇しつつあるものの、積極的に運動する生徒とそうでない生徒の二極化傾向が指摘されている。また、生徒を取り巻く環境の変化や人の生命を脅かす感染症の流行等に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要であるとの指摘もある。こうした指摘を踏まえ、生涯にわたって健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質・能力を育てるとともに、心身の調和のとれた発達を図り、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現する基礎を培う必要がある。特

に、食育の推進、体力の向上に関する指導、安全に関する指導並びに心身の健康の保持増進に関する指導については、各教科等において適切に行うよう努めなければならない。

[研究の視点]

- ① 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を目指して進められた、オリンピック・パラリンピック教育の成果を生かし、「する・みる・支える・知る」といった、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成と一層の体力の向上
- ② 食育の推進及び心身の健康の保持増進や感染症等の予防と対策に関する指導の充実
- ③ 身の回りの生活の安全、交通安全、防災に関する指導や情報化等の進展に伴う事件・事故の防止等の新たな安全上の課題に関する指導の充実

第5分科会 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実

産業構造・就業構造の変化に加え、雇用形態や雇用慣行が多様化・流動化する中で、義務教育修了段階にある生徒たちに対し、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けることができるよう、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」によって構成される「基礎的・汎用的能力」を育成するキャリア教育が求められる。

加えて、小・中・高等学校のつながりを明確にしたキャリア教育の充実を図ることが大切であり、令和2年度より児童生徒が活動を記録し蓄積する教材としてのキャリア・パスポートが、すべての小・中・高等学校において導入され、活用されている。また、一人一人が、多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことのできる生涯学習社会の中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、特別活動を要としつつ学校の教育活動全体を通じて組織的かつ計画的な進路指導を行うことが重要である。

[研究の視点]

- ① 社会的・職業的自立のために必要な能力を育成する系統的なキャリア教育の充実
- ② 教育活動全体を通じた組織的・計画的な進路指導の充実
- ③ 学校と地域・社会や産業界等が連携・協働した職業講話や職場体験活動の充実

第6分科会 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実

学校教育は、集団での生活や活動を基本としており、生徒相互の人間関係の在り方は、生徒の健全な成長と深く関わっている。好ましい人間関係を基礎に、自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成することは、人格のよりよい形成と学校生活の充実の基盤となる。そのために、学級活動をはじめとする特別活動や部活動は、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う重要な役割をもつ。平成25年に施行されたいじめ防止対策推進法に基づき、組織的な対応と関係機関との連携の強化等が図られた。しかし、いじめの問題、自殺などが依然として発生しており、不登校も増加傾向にあることを踏まえ、各学校では組織的、継続的な支援・取組を更に充実させるとともに、家庭や地域及び関係機関、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門スタッフ等との連携を一層充実させる必要がある。

[研究の視点]

- ① 好ましい人間関係を築き、他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する特別活動、部活動等の在り方
- ② いじめの問題への対応や自殺の防止及び不登校生徒への支援の在り方
- ③ 家庭や地域及び関係機関、専門スタッフ等との連携・協力を密にした生徒指導の推進

第7分科会 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成

変化の激しい社会を生き抜いていける人を育成していくためには、教員自身が時代や社会、環境の変化を前向きに受け止め、その時々状況に応じた適切な学びを提供していくことが求められる。今後、改めて教員が高度専門職業人として認識されるためには、自律的に学ぶ姿勢をもち、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質・能力を、生涯にわたって高めていくことのできる力が必要とされる。そのためには、教員一人一人が専門職としての高度な知識・技能をもつとともに、高い倫理観に立ち、使命感溢れる指導力を発揮して、生徒や保護者、地域の信頼を獲得することが不可欠である。

また、教員自らが個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応できる指導力の向上を図ることが重要である。さらに、心理や福祉等の専門スタッフなど多様な人材と協力したり、地域と連携・協働を円滑に行ったりする資質・能力をもち、諸課題の解決に取り組むことができる人材の育成が急務である。

[研究の視点]

- ① 生徒や保護者、地域の信頼に応えられる資質・能力を備えた教員の育成と研修の在り方
- ② 教科等の専門性と指導力を高める人材育成と研修の在り方
- ③ 地域等と協働し、組織的に諸課題の解決に取り組むことができる教員の育成

第8分科会 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現

学校には、これまでも新たな課題に応じて、司書教諭、栄養教諭等の新しい職が導入されてきた。近年は、ますます複雑化・多様化する教育課題に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の教員以外の専門スタッフが導入されている。そのため、これからは教職員間のより一層の組織的対応を強化することはもちろん、すべてを教職員が担う自己完結型の運営を廃し、これら専門スタッフとの協働を推し進め、学校内の多様な人材がそれぞれの専門性を生かして能力を発揮するチームとしての学校を実現していくことが求められる。また、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）等を活用するなど、チームとしての学校と地域の連携体制を整備していくことで、地域とともにある学校づくりを推進し、社会総がかりで教育を進めていくことも求められる。その結果として、教員が担うべき業務の精選・明確化などを図り、新たに導入されたスクールサポートスタッフ等を活用し教員の働き方改革につなげていくことも必要である。こうした「チーム学校」の実現のため、校長はこれまでの教職員の管理を主とするマネジメントから脱却し、多様な人材を含めた学校組織全体での効果的運営のためのマネジメントを進めていく必要がある。

[研究の視点]

- ① 教職員や多様な人材の専門性を活用し、組織力を高める学校経営の在り方
- ② チームとしての学校と地域の連携・協働体制の在り方
- ③ 「チーム学校」の実現と教員の働き方改革の在り方

4 分科会運営

(1) 分科会打合せ 12:00～13:00

- ①参加者 司会者2人 口頭発表者2人 運営委員1人 会場責任者1人
- ②会場 三重県総合文化センター 2階 大会議室 (第1、第2、第3)
2階 セミナー室A (第4、第5)
三重県教育文化会館 5階 中会議室 (第6、第7)
アスト津 4階 会議室1 (第8)

③その他

⑦出席者の昼食は、打合せ会場にて準備します。

※昼食後、打合せをおこないますので、11:45には会場におこし下さい。

⑧打合せ終了後、口頭発表者のリハーサル及び機器の動作確認をおこないます。

(2) 分科会 13:30～16:30

- 13:25 開会予告
13:30 開会の挨拶、日程・進行説明
13:40 提案Ⅰ（口頭発表20分・質疑応答5分）
14:05 グループ協議Ⅰ（30分）
14:35 全体協議Ⅰ
14:55 休憩、座席移動（15分）
15:10 提案Ⅱ（口頭発表20分・質疑応答5分）
15:35 グループ協議Ⅱ（30分）
16:05 全体協議Ⅱ
16:25 総括、閉会の挨拶、諸連絡
16:30 散会、後始末

(3) 方法

- ⑦提案Ⅰ・Ⅱでは、実践発表を聞き、質疑応答を通して校長の指導性や今後の課題について識見を深めます。
- ⑧グループ協議Ⅰ・Ⅱでは、参加者の日頃の実践をもとに各分科会の「研究題」について様々な切り口から協議します。
- ⑨新型コロナウイルスの関係から、グループ協議Ⅱでは、グループのメンバーを変えず、グループ協議Ⅰと同様に意見交換をおこないます。
- ⑩グループ協議では、事前に指定された進行役が会を進めていただきます。記録者には、簡単なメモをお願いするとともに、グループのまとめを発表いただくことがあります。
- ⑪グループ協議の中で、自校の実践を踏まえた発言をお願いするとともに、課題解決に向けた積極的な意見交換をお願いします。